



# はこべら

## 卒業まで〇日



「卒業まで〇日」六年生の教室にカウントダウンカレンダーが飾られ、残り十数枚となりました。六年生は小学校生活のまとめと共に、卒業に向けて準備をしています。

二月二十八日に、下級生の思いでいっぱい飾られた体育館で「六年生を送る会」を行いました。新しいリーダーとなる五年生を中心に、一年生から五年生は、歌や言葉に感謝の気持ちを込めました。一年生は、出し物のあとに一年間優しくしてもらった六年生に、手作りペンダントを一人一人の首にかけてプレゼントしました。六年生は、終始笑顔で下級生の思いを受け止めてくれました。六年生もお返しに全員で「情熱大陸」を合奏してくれました。一人一人が役割を果たし、最高学年らしい力強い立派な演奏でした。先生方からは「三月九日」の合唱にのせてメッセージを送られました。六年担任からのメッセージに涙ぐむ六年生もあり、いよいよ卒業が近まったことを改めて感じました。とても温かな、すてきな時間になりました。最後は六年生から五年生へ校旗を引き継がれました。五年生には、この校旗の重みを感じ、東小のよきリーダーとなってくれることを期待しています。

## 当たり前前のごときを当たり前前

バルセロナオリンピックの金メダリストの柔道家古賀稔彦さんの講演の記事を読みました。古賀氏は自分が運営する柔道塾の「五訓」について話をされています。それは、  
一、「はい」という素直な心  
一、「ありがとうございます」という感謝の心  
一、「私がいま」の心  
一、「すみません」という反省の心  
一、「おかげさまで」という謙虚な心

この言葉を稽古を始める前に声に出して言うそうです。声に出すことにより、その言葉は自分の体の一部となり、いつしかその言葉が自然と発せられるようになるそうです。頭でわかっているてもなかなか行動に移せない世の中だからこそ必要だと話されていました。この言葉は、私たちの生活の中では当たり前に必要な言葉でありながら、実際はなかなかできていない現状があります。

この記事を読んだ後、以前「福井県の学力・体力がトップクラスの秘密」という記事を読んだことを思い出しました。それは、福井県の結果が学習面でも体力面でも好成绩を収めたということですが。その背景には、当たり前前のごときを当たり前にやる力」が身に付いていることが大きな要因だそうです。具体的には、「先生の話をしっかりと聞く」「宿題をきちんとやってくる」「友達と仲良くする」などが挙げられています。また、「その背景には「家庭の安定」「地域の絆の深さ」など非行を防ぐ環境が醸成されていることも挙げられています。本校の学校生活の中にも当たり前前のごときを当たり前前にやるのが数多くあります。例えば、

- 相手に届く声であいさつをする
  - 決められた時刻に登校する
  - 履物を揃える
  - 鉛筆を削つておく
- どれも当たり前前のごときで、今も昔も変わらない生活の基本です。しかし、この基本が定着していないのが現状です。もう一度基本に戻り、学校・家庭・地域が一体となって子供たちの健全育成に向け取り組んでいく必要があるのではないかと考えます。

## 読書のすすめ

時津東小学校では週に四日、朝の五分間読書に取り組んでいます。例年、図書室の貸し出し冊数は一人当たり二百冊を超えます。六年生でも百八十冊近く借りています。これは、他校と比べても少なくありません。しかし、学校評価アンケートの保護者の皆さまの評価は2.6と低く、ここ数年ほとんど変わっていません。理由は、学校以外では本を読んでいるからではないかと考えられます。

読書は「心の栄養」と言われます。読書は子供たちの心を豊かに、知る楽しさ、知的な好奇心を育てます。子供たちの読書習慣を本物にするためには、家庭での読書の時間の確保が必要です。ご協力をよろしく願います。

- 三十分でもテレビを消して、読書の時間に当てましょう。
- 家族みんなが読書をしている時間が取れるといいですね。
- 子供たちは読み聞かせが大好きです。
- ときには子供たちと、図書館や本屋に連れて行ってあげてください。

## 9歳・10歳の壁

小学校の3・4年生にあたるこの頃、集団で生活するようになり、社会性が育ってきます。そのような中で、抽象的内容を理解できるようになり、頭の中で想像したり、考えたりし始めます。すると、もう一人の自分との対話が始まります。

「宿題忘れた～。どうしよう～。」→「取りに行った方がいいかな?」→「でも遅刻しそうだな～。」という風な自問自答が始まります。もっと進めば自分を客観視する友だちの目も想像できるようになり、他の人の心を考えて読み取ることができるようになります。

○忘れ物をしたら笑われる…「羞恥心」

○失敗したらどうしよう…「劣等感」

○俺の方ができる…「優越感」 などと同時に、

○自分が忘れたら班のみんなが困るかな…「思いやり」なども生まれてきます。



また一方で、この頃から学習内容にちょっとした変化が訪れます。それも実は、『抽象的内容』なのです。算数では余りのある割り算が登場し、「割り切れないよ～!」ともやもやしてきます。複雑な文章題も出てきます。丸暗記ではついて行けなくなるのもこの頃です。こうして見ていくと、社会性の面でも、学習の面でも抽象的な内容の理解が大事なようです。それを支えるのが…**国語力**です。言葉をたくさん使えることが一つの鍵(ポイント)です。**友だちとたくさん遊んでいますか? ゲーム・携帯やスマホ・TVを使った遊びに偏っていませんか?**

### 特別支援NEWS

#### やってみました特別支援!～餅は餅屋?～

今回は三男の話です。1歳9か月検診の時に言葉の遅れを指摘されました。指さしなどであれこれ分かってはいたようですが、なかなか言葉が出ず「ん～!」で大概はすませていました。どうしたものか家族で話し合い、就学前ということもあり、発達支援を行っている『ひまわりの園』に相談してみました。すると、まだはっきりとは言えないので長い目で見ていきましょうと言われました。でも、訓練としてシャボン玉を吹かせたりラップを吹かせたりしてみては?とアドバイスをいただき、早速帰りに百元ショップに寄り、おもちゃのラップを買いました。初めは「すーすー」としか音が出ませんでした。徐々に「ぷーぷー」と音が出始め、それに伴い、お返事「は～い」などの言葉が出るようになり、「がりがり、すき」(ガリガリ君が好き)などの2語文も出るようになりました。相談してよかったと喜ぶと共に「餅は餅屋」と思いました。( ^ \_ ^ )

#### 時津町近郊で子育て支援を行っている施設の紹介

時津町近郊で発達相談を行っている主な施設は以下のとおりです。他にもいくつかあります。こういったところからお尋ねがありましたらコーディネーターまでどうぞ。

- 北徳洲会病院(長与町)
- ハートセンター(長崎市茂里町)
- 光風台病院(長崎市鳴見台)
- 田川療養所(長崎市錦)
- 新クリニック(長崎市若葉町)
- 長崎子ども女性障害者支援センター  
(長崎市橋口町)
- やない小児科医院(長崎市岩見町)